

# 笛吹市探訪

## 古墳のはなし その一

市には非常に多くの古墳があります。古墳は市の古代を代表する存在と言えるでしょう。

「笛吹市探訪」では今までも代表的なものを紹介してきましたが、それらはほんの一部に過ぎません。今回と次回で市にある古墳を含めた古墳時代の全体の状況をまとめてみたいと思います。

しかし、その前にまず古墳とは何かを考えてみましょう。実はその定義は少し複雑です。亡くなった人を埋め、その上を土や石で盛り上げた墓なのですが、この種の墓は弥生時代にも、「古墳時代」以後にも造られています。ふつつ古墳という「古墳時代」の古墳のことを指します。当たり前だと思われるかもしれませんが、ただ、年代的には3世紀中頃から7世紀後半までで、埋葬された



箸墓古墳：出典「国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省」

先に述べたように、古墳時代は400年間ほどの長期間でした。そこで研究者は古墳時代を前期（3世紀中ほど）、4世紀前半）、中期（4世紀中頃）、6世紀後半）、後期（6世紀末）、7世紀後半）に分けて考えていますし（研究者により違いがあります）、特に始まりの時期や、終わりの時期を初期また終末期などと言うことがあります。

### 日本最古の古墳

卑弥呼の墓ではないかとも言われる奈良県桜井市にある箸墓古墳（はしはかこふん）は日本最古の古墳の一つと考えられています。墳丘の全長が約280メートルあり、後円部の高さは30メートルもあります。宮内庁が大物主神（おおものぬしのかみ）の妻ヤマトトトヒモソヒメの墓として管理し、一般人の立ち入りはできません。しかし、隣接地の発掘調査や宮内庁の調査により、墳丘の周囲には幅10メートルの周濠（しゅうこう）（ほり）、その外側に幅15メートルの堤（つつみ）があること、墳輪のモデルになった特殊な形の土器が墳丘後円部から見つかっている

ること、堅穴式石室（たてあなしきせきしつ）を持つらしいこと、外面の少なくとも一部が石で葺かれていることなどがわかっています。

### 新聞を賑わした箸墓遺跡

数年前、箸墓古墳のある地域、「三輪そうめん」で有名な三輪山の西側一帯で行われた纏向遺跡（まきむくいせき）の発掘調査で「卑弥呼の宮殿を発見か？」と世間を騒がせた報道がありました。大規模土木工事ともなう計画性の高い3世紀前半の集落施設が見つかったのです。大型建物4棟が直線的並んでいる跡や大規模な運河の跡も見つかっています。

箸墓古墳の周辺には出現期の古墳が数多く残り（ホケノ山、石塚、矢塚、勝山など）、現在は箸墓古墳群として国の史跡になっています。

さて、市で最古の古墳は八代町岡にある岡・銚子塚古墳ですが、造られたのは4世紀後半で、箸墓が造られてから100年ほど後のことです。今回は市内の古墳の変遷を見てみましょう。

人物は王、権力者、集団の長、またその近親者などと考えられます。

また、日本は広いですから、古墳時代の終わりもおおむね西日本では早く、東日本では遅かった、という違いがあります。